

令和3年6月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km²)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	5,536	8,861	4,493	4,368	△ 4	3
2 千 石	3,864	6,612	3,355	3,257	14	20
3 内 山	5,633	8,024	4,284	3,740	21	23
4 大 和	3,432	6,687	3,287	3,400	△ 9	△ 2
5 上 野	7,397	15,506	7,631	7,875	20	26
6 高 見	7,295	13,311	6,368	6,943	8	6
7 春 岡	6,813	11,007	5,756	5,251	29	38
8 田 代	11,227	21,888	10,415	11,473	△ 1	△ 13
9 東 山	10,316	19,357	9,449	9,908	33	40
10 見 付	4,345	8,186	4,090	4,096	4	1
11 星 ケ 丘	3,474	6,827	3,050	3,777	△ 2	△ 13
12 自 由 ケ 丘	3,568	7,289	3,294	3,995	15	20
13 富 士 見 台	6,426	15,221	6,930	8,291	△ 5	△ 14
14 宮 根	3,769	8,142	3,773	4,369	8	△ 12
15 千 代 田 橋	3,692	8,352	3,937	4,415	△ 4	△ 12
千 種 区 計	86,787	165,270	80,112	85,158	127	111
R2. 6. 1	88,350	166,074	81,118	84,956	18	18
対 前 年 比	△ 1563	△ 804	△ 1006	202	109	93
名 古 屋 市	1,125,266	2,329,081	1,143,593	1,185,488	794	170
愛 知 県 (R3. 5. 1)	3,289,488	7,524,185	3,761,758	3,762,427	7,222	2,993

前月中の 増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	103	94	9	917	815	102

【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口	
昭和55年	166,837	平成12年	148,537	173,598 (昭和50年2月1日)	
昭和60年	163,762	平成17年	153,118		
平成2年	156,478	平成22年	160,015	これまでの最少人口	
平成7年	148,847	平成27年	164,696	146,727 (平成11年4月1日)	

注) 世帯数と人口は、令和2年国勢調査結果の本市独自集計速報値を基礎とし、毎月の住民基本台帳人口の異動数を加減して推計したものである。

千種区の年齢3区分別人口の概況

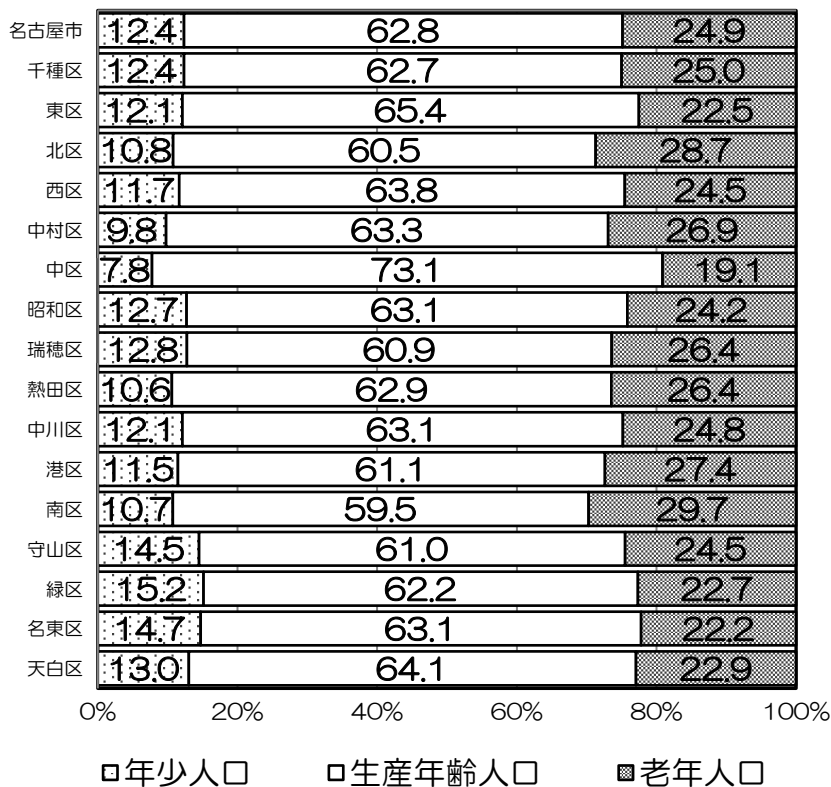


図1：区別年齢3区分別人口比率（令和2年10月1日現在）

今回はまず、千種区の年少人口（15歳未満）、生産年齢人口（15～64歳）および老年人口（65歳以上）の比率について見てみます（図1）。

名古屋市全体および各区の令和2年10月1日現在の年齢3区分別人口比率をみると、年少人口比率は緑区が15.2%と最も高く、千種区は12.4%で16区中7位です。

生産年齢人口比率は中区が73.1%と最も高く、千種区は62.7%で16区中10位です。

老年人口比率は南区が29.7%と最も高く、千種区は25.0%で16区中7位です。

千種区の3区分別人口比率は名古屋市の比率とほぼ同じとなっています。

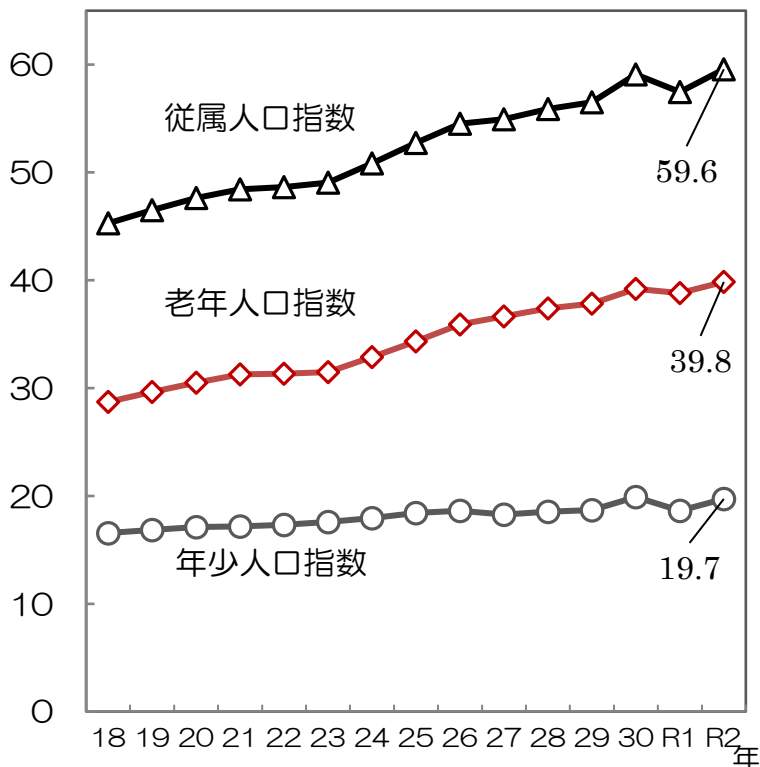


図2：千種区の年齢構成指数の推移（各年10月1日）

次に、千種区の年齢構成指数の推移を見てみます（図2）。年少人口指数および老年人口指数は、生産年齢人口100人が年少者または高齢者を何人支えるかを示すものです。また従属人口指数は、年少人口指数と老年人口指数を合計したものです。

千種区の令和2年の年少人口指数は19.7、老年人口指数は39.8で、16区中の高い方からそれぞれ7位と8位となっています。また、千種区の令和2年の従属人口指数は名古屋市全体（59.3）及び令和元年の千種区従属人口指数（57.4）を上回り59.6です。これは16区中高い方から7位（令和元年：11位）となっています。